

ミニレター
あぜみち通信

* * * * *

令和2年1月1日

第229号

編集・発行：(一社)愛知県農業会議

新年おめでとうございます

皆様には、輝かしい新年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。

さて、農業委員会事務局、農業委員、農地利用最適化推進委員の皆様方には、農業委員会の必須業務として位置づけられました「農地利用の最適化」の推進に関する現場活動の展開につきまして、これまでも農業委員と推進委員の連携の下、農地の利用集積・集約化、新規参入の促進、農地パトロールなどによる農地の現況把握を始め、農家の戸別訪問、地域における話し合いへの参加など地域の実情に応じた形で取組を進めていただいているところであります。

こうした取組に加え、昨年11月1日から施行されました農地中間管理事業法の改正により、農業委員会の果たすべき役割として「農業者の意向把握」と「地域における話し合いの場への参画」が明確化されたところでもあります。今後は、「人・農地プランの実質化」に向けた取組を関係機関との連携・協力の下、着実に進展を図ることが農業委員会組織の責務となっております。

このようなことから、農業委員会ネットワーク機構であります農業会議としましては、農地利用の最適化の推進、人・農地プランの実質化に関して、具体的な成果に寄与することができるよう、関連する情報の提供や両委員の活動に対するきめ細かな支援などに全力で取り組む所存でございます。皆様の格別のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

最後に、皆様方にとりまして実り豊かな年となりますよう、心よりお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

一般社団法人 愛知県農業会議 会長 川上 万一郎

あけましておめでとうございます

皆様にとりまして、本年が良き年でありますよう心よりお祈り申し上げます。

本年も、愛知県農業会議の事業へのご理解、ご協力を切にお願い申し上げます。

愛知県農業会議 職員一同



◎ 全国農業新聞臨時支局長等会議が開催されました

12月3日に名古屋市中村区の「ウイंक愛知」において、全国農業新聞臨時支局長・支局長補佐・担当者会議が開催されました。

今回の会議は、全国農業新聞の部数減少に伴い、頁数、紙面構成等を抜本的に見直す必要から行われたものです。

最初に全国農業会議所から報告事項として、①令和2年度の新しい情報会議の開催、②全国農業新聞ホームページの改修について説明がありました。

続いて、協議事項として、①新聞事業の今後の展開方向と新たな普及奨励金、②都道府県版の設置基準の変更、③委託費・支局経費の上限額の算定期間の変更、④建頁の見直し、地方版の再編を含めた紙面構成の変更について説明があり、それぞれの項目について協議を行いました。

今後、全国3会場に分けて行った協議結果等も踏まえ、令和2年1月29日開催の全国農業新聞総局長会議で決定されることとなります。

◎ 第29回近畿・東海・福井ブロック稲作経営者研究大会が開催されました

12月4日に名古屋市中区「名古屋東急ホテル」において、第29回近畿・東海・福井ブロック稲作経営者研究大会が開催されました。

最初に、愛知県稲作経営者会議の鈴木会長から主催者を代表して挨拶があり、続いて、東海農政局の片桐次長、県農業水産局の金沢技監から来賓挨拶がありました。

研究大会では、服部農園有限会社(大口町)の服部都史子氏から「強い農家を目指して」と題し、これまでの歩み、経営概要、社員の人材育成をポイントにした経営戦略など服部農園における様々な取組について講演がありました。同社は、地域農業の振興・活性化や社員教育による経営改善の取組が高く評価され、平成30年度全国優良経営体表彰経営改善部門で農林水産大臣賞を、また、今年度は、地域における農業全体の成長を目指し、経営者と社員が横並びの関係でキャリア育成に取り組んでいる点が高く評価され、グッドキャリア企業アワード2019イノベーション賞(厚生労働省所管)を受賞されています。

続いて、「近未来の農業」をテーマに、農機具メーカー3社をパネラーに迎え、コメ作りにおけるAIの活用や将来の農業機械の進化などについて、パネルディスカッションが行われました。

◎ 常設審議委員会(12月)の審議状況について

12月9日に「愛知県三の丸庁舎」において、農地法に係る農業委員会からの諮問に対する答申を審議する常設審議委員会を開催しました。

12月の諮問は、9の農業委員会から農地法第5条に基づく転用事案12件、59,228㎡に

ついてそれぞれ審議し、いずれも原案どおりで差し支えない旨承認されました。

(参考) 諮問農業委員会

春日井市(1件)、江南市(1件)、常滑市(2件)、美浜町(2件)、武豊町(1件)、豊田市(2件)、みよし市(1件)、新城市(1件)、豊川市(1件)

◎ 農業者年金ブロック別加入推進対策会議を開催しました

12月10日に名古屋市中区の「アイリス愛知」、12月12日に「豊川市勤労福祉会館」、12月13日に「刈谷市産業振興センター」において、令和元年度愛知県特別活動計画に基づき、尾張・海部ブロック、東三河ブロック、知多・西三河ブロック別に農業者年金加入推進対策会議を開催しました。

最初に、「加入推進強化月間における取り組みについて」、独立行政法人農業者年金基金の理事から新規加入者に対するアンケート結果の内容や下半期の加入推進の取組、基金担当者からイデコとの比較や京都府京丹波町農業委員会の取組事例の説明があり、県農業会議からは愛知県における強化月間における取組について説明しました。

続いて、市町村・JAにおける加入推進活動の取組状況について 出席した農業委員会やJAの担当者から報告をいただき、農業者年金の加入推進等に関する意見交換を行いました。

11月末時点の新規加入者は20名で、前年同期より3名減少しています。各農業委員会におかれましては、農業者の老後のゆとりある生活のため、農業者年金の加入推進に引き続きご尽力を賜りますようお願いいたします。

◎ 農地中間管理事業の推進に向けた研修会が開催されました

12月11日に「名古屋市港区文化小劇場」において、東海農政局主催の農地中間管理事業の推進に向けた研修会が開催されました。

研修会では、最初に事例発表として、①「中山間地域の園芸産地を支える新規就農への農地集積支援(岐阜県高山市)」では、県、市、農業委員会、JAなどで構成する高山市就農支援協議会を設立し、就農希望者の発掘や就農支援等を実施するとともに、新たな担い手のための農地確保の取組として、新規就農者向けの農地集積団地を3か所設置したこと、②「愛知県西尾市における担い手農地集約化への取組み」では、中根新田地区において農地中間管理機構関連事業を活用するため、推進協議会、支援チームを関係機関・団体と結成し、地権者への説明会、意向調査を実施し、中間管理権の設定を行ったこと、③「伊賀市の人・農地プラン・農地中間管理事業推進の取組について」では、「自分たちの農地は自分たちで守る」を念頭に、27地区で人・農地プランを作成し、中間管理機構事業を活用した農地の集積、機構集積協力金を活用した農機導入や獣害対策を実施していることなど、それぞれの取組内容等について発表がありました。

また、東海農政局からは、農地中間管理事業の5年後見直しに関して、全国の集積計

画一括方式への移行状況などについて情報提供がありました。

◎ 農業経営士等の認定式が開催されました

12月12日に名古屋市中区の「愛知県庁本庁舎正庁」において、「令和元年度愛知県農業経営士・農村生活アドバイザー・青年農業士認定式」が開催されました。

農業経営士45名、農村生活アドバイザー18名、青年農業士22名が認定され、農業経営士は岩瀬利彦氏(西尾市)、農村生活アドバイザーは酒井良子氏(常滑市)、青年農業士は水野裕昭氏(田原市)がそれぞれ代表となり、大村知事から認定証書が授与されました。

認定証書授与後、大村知事の挨拶に続き、農業経営士、農村生活アドバイザー、青年農業士の認定者代表から今後の抱負とお礼の挨拶があり、来賓を代表して鬼頭弘子愛知県農村生活アドバイザー協会会長が祝辞を述べました。

また、認定式後、株式会社カクト・ロコの野末信子取締役会長による「女性の声に耳を傾けて・女性の活躍で経営は変化する」と題する記念講演が行われました。

◎ 話し合いのコーディネーターに関する研修会を開催しました

12月16日に「愛知県三の丸庁舎」において、農地利用の最適化を推進する上で重要な地域での話し合いを効率的に進め、合意形成を行うための手法を内容とする「話し合いのコーディネーターに関する研修会」を開催しました。

研修会では、一般社団法人会議ファシリテーター普及協会代表理事の釘山健一氏から「「これからの農業は楽しい対話とまちづくりの視点が変わる」～人・農地プランの実質化は、座談会の実質化から～」と題し、座談会の場の雰囲気づくりや対話の進め方、留意事項・ポイントなどについて講演が行われました。

参加者からは、今までに考えたこともなかった会議の手法を学ぶことができた、今後の話し合いに活かしたいなど、大変参考になったとの声を多くいただきました。

◎ 農林畜産物品評会表彰式等が開催されました

12月20日に名古屋市熱田区の「熱田神宮会館」において、愛知県農業協同組合中央会及び熱田神宮豊年講の共催により、農林畜産物品評会表彰式並びに熱田神宮農業功労者顕彰式が開催されました。

表彰式開催前に関係者出席のもと、熱田神宮神楽殿において「令和元年度農業感謝祭」が厳かに執り行われました。

表彰式は、愛知県農業協同組合中央会前田会長、豊年講安井総代の主催者挨拶、熱田神宮千秋宮司の挨拶の後、第38回熱田神宮農業功労顕彰状が後藤康明氏(野菜部門、扶桑町)、武藤兼利氏(野菜部門、一宮市)及び渡辺重利氏(稲作部門、西尾市)の3名の方々に贈呈されました。

顕彰状贈呈後、第69回農林畜産物品評会の審査報告があり、農林水産大臣賞、熱田

神宮宮司賞は浅野博正氏(品目:菊、田原市)と花井信勝氏(品目:ばれいしょ、大府市)、東海農政局長賞は農事組合法人大野瀬温(品目:うるち玄米、豊田市)、愛知県知事賞は原田博雄氏(品目:さといも、岡崎市)、伊藤宣夫氏(品目:にんじん、碧南市)、斉藤豪康氏(品目:キャベツ、武豊町)、稲垣啓氏(品目:茶、西尾市)、加藤庄蔵氏(品目:みかん、西尾市)、山田典生氏(品目:うるち玄米、豊田市)、愛知県議会議長賞は野田仁見氏(品目:だいこん、一宮市)、名古屋市長賞は山口幸江氏(品目:ブロッコリー、緑区)と加藤周治氏(品目:プチヴェール、豊明市)、名古屋市会議長賞は丹羽新太郎氏(品目:蜂蜜、西区)が受賞したのを始め、合計で388名の皆さんが受賞しました。

なお、品評会には、農産・蚕糸品600点、園芸品1,576点、畜産品190点、林産品19点の合計2,385点の出品がありました。

◎ 愛知農業賞表彰式が開催されました

12月23日に名古屋中区の「JAあいちビル」において、公益財団法人愛知県農業振興基金による、令和元年度愛知農業賞(あいちアグリアワード)表彰式が開催されました。

表彰式は、鈴木理事長の主催者挨拶後、竹谷審査委員長から各部門の審査講評がありました。表彰状は、担い手育成部門は、スイカ、ハクサイによる露地野菜経営を確立するとともに、農業大学の研修生受け入れなど新規就農者の育成・支援に取り組んでいる山田良一氏(豊田市)、農業・農村振興部門は、新規転作作物の導入と拡大モデルを確立するとともに、女性農業者の組織作り、消費者向けの農業講座や小学生への農業教育などに取り組んでいる福井直子氏(豊橋市 農業会議常設審議委員・農業委員会レディスあいち代表)に授与されました。

表彰式終了後、受賞者による記念講演が行われました。

◎ 巡回支援を実施します

農業会議では、機構集積支援事業を活用して農業委員会への巡回支援を1月から2月に行います。内容は、①農地利用の最適化の推進及び今後の活動(人・農地プランの実質化と最適化の取組、農地利用最適化交付金の活用など)、②農業委員会の運営(改選への対応状況、農地情報公開システムなど)等について意見交換を行うとともに、農業会議から関連する情報を提供します。

◎ 国の令和2年度農業委員会関係予算案の概要

令和2年度の農林水産予算概算決定の概要が公表されました。主な事業予算は次のとおりです。なお、農地利用最適化交付金の額は、執行見込額です。

農業委員会交付金	47億円(47億円)	農地利用最適化交付金	57億円(51億円)
機構集積支援事業	30億円(29億円)	農業人材力強化総合事業	213億円(210億円)
人・農地問題解決加速化支援事業	5億円(3億円)	中山間地農業ルネッサンス事業	
農地耕作条件改善事業	250億円(300億円)		442億円(440億円)

◎ 全国の遊休農地面積・耕地面積の状況

① 遊休農地面積の状況

農林水産省が令和元年10月1日に公表した「平成30年に農業委員会が実施した農地の利用状況調査」の結果によると、全国の遊休農地面積は97,814haで、前年より705ha減少となっています。

このうち本県の遊休農地面積は2,475ha(1号遊休農地2,321ha、2号遊休農地154ha)で、前年より205ha増加(1号遊休農地142ha増、2号遊休農地63ha増)となっています。

なお、遊休農地面積が前年より増加したのは、全国では愛知県を含む22県となっています。

② 耕地面積の状況

農林水産省が令和元年10月31日に公表した「令和元年7月15日現在の耕地面積」の状況によると、全国の耕地面積は439万7,000haで、荒廃農地からの再生等による増加があったものの、宅地等への転用、耕地の荒廃等による減少があったため、前年に比べ2万3,000ha減少(減少率0.5%)となっており、全都道府県で前年より減少しています。

このうち本県の耕地面積は、7万4,200ha(田4万2,100ha、畑3万2,100ha)で、前年より700ha減少(田400ha減、畑300ha減)(減少率0.9%)となっています。

◎ 今後の主な行事予定

- 1月 8日 女性農業委員登用促進研修会(東京都、主婦会館プラザエフ)
- 1月 9日 全国農業委員会女性協議会総会(同上)
- 1月 9日 女性農業委員向け農業者年金加入推進セミナー(同上)
- 1月 9日 常設審議委員会(県三の丸庁舎)
- 2月 4日 都道府県農業会議専務理事・事務局長会議(東京都、参議院議員会館)
- 2月 6日 常設審議委員会(県三の丸庁舎)
- 2月 6日 農業会議地域協議会会長会議(県三の丸庁舎)
- 2月 7日 都道府県農業会議会長会議(東京都、主婦会館プラザエフ)
- 2月12日 農地等の相続に関する研修会(県三の丸庁舎)
- 2月17日 農業委員会レディスあいち臨時総会及び研修会(豊橋市役所)
- 3月 4日 常設審議委員会、理事会(県三の丸庁舎)
- 3月 5日 女性の農業委員会活動推進シンポジウム(東京都、砂防会館)
- 3月12日 全国農業会議所臨時総会(東京都、都市センターホテル)
- 3月26日 臨時総会、理事会、研修会(県三の丸庁舎)
- 5月15日 農業委員会会長・事務局長会議(県三の丸庁舎)
- 6月 2日 全国農業委員会会長大会及び現地研修会(～3日)(東京都他)